

平成18年度
第1回 温海地域審議会
会議録（概要）

期日：平成18年5月19日（金）

場所：温海庁舎 大会議室

平成18年度 第1回温海地域審議会 会議録(概要)

日 時 平成18年5月19日(金)午後2時～

場 所 鶴岡市温海庁舎 6階大会議室

出席委員

本間文夫会長、佐藤重夫副会長、今野久良、齋藤金一、斎藤幸子、
佐々木勘司、佐藤一喜、藤谷 隆、本間儀左衛門、本間紀美子、本間 栄、
本間元幸、三浦 仁

欠席委員

安藤良博、五十嵐時雄、伊藤 貢、伊藤欣司、佐々木真人、佐藤喜久子、
本間やよい

市出席者

温海庁舎 支所長 五十嵐收一、
総務課長 川畑仁、政策企画室長 五十嵐正治、
市民福祉課長 本間節子、税務市民主幹 庄司又兵衛、
産業課長 本間新一、建設環境課長 相澤康夫
下水道環境主幹 五十嵐金悟、教育課長 伊藤彦市
総務課総務地域振興主査 三浦市樹、総務課総務地域振興主査
佐藤正哉、総務課財政管財主査 白幡 俊
本 所 政策調整室政策調査課長 柴田昌明、係長 林 悌一

次 第

- 1.開 会
- 2.会長あいさつ
- 3.支所長あいさつ
- 4.報告事項
 - (1)組織機構の変更について
 - (2)合併協定項目の状況について
 - (3)平成18年度予算の概要について
 - (4)平成18年度の主な事業の概要について
- 5.その他
- 6.閉 会

【会議の概要】

(辞令交付)

新たに委員となった2委員のうち、出席した今野久良委員に交付

- 1.開会 (総務課総務地域振興班 三浦主査)
- 2.会長あいさつ
- 3.支所長あいさつ
- 4.報告事項

(1)組織機構の変更について(総務課長説明)

本間文夫会長 ただ今の説明に対して、質問等ある方ございませんか。質問ないので、次に進みます。

(2)合併協定項目の状況について(総務課長説明)

本間文夫会長 ただ今説明ありました件に対して、ご質問等ございませんか。ないので、次に進みます。

(3)平成18年度予算の概要について(総務課長説明)

(4)平成18年度の主な事業の概要について(各担当課長・主幹説明)

本間文夫会長 ただ今各課より説明ありました。これに対してご質問ある方。斎藤幸子委員 私の後ろに行政サイドの方がいて、お尻を向けて質問する事になるので、出来れば他の委員と同じく対面式の方がやりやすい。次回はぜひ対面式にさせていただきたいと思います。

今日、山形新聞に「温海発・行政の結婚支援」ということで載っていました。この登録制度が4年目を迎えるそうですが、行政の方々が努力したにもかかわらず、まだ1組のカップルも成立していないということで、甚だ残念ではございます。皆さんの努力が足りないとは思っておりませんが、検討課題になっておりますように、男性陣に問題があるのでないかと思っております。むしろ男性陣の後ろについている親の方に問題があるのでないかと思っております。30、40過ぎた息子の結婚問題をいまだに年老いた親が、死ぬに死ねない状況で親が悩まなければならないということが、私には納得できないわけですが、結婚対策登録制度は温海在住の男性だけがターゲットなのでしょうか。独身の女性もたくさんいるのですが、男性だけの登録なのでしょうか。

総務課長 後ろにいて質問しづらいということですが、事務局として皆さんの協議する場を設定しまして、私どもは説明員として出席しています。審議会などの場合はこのように座席を配置させていただいておりますので、ご理解いただきたいと思っております。

結婚対策の関係ですが、非常に難しい事業でございまして、登録者制度での成果というのは、現在進行形の方もありますが、結果はまだ出ていませんが、出会いイベント型、交流型については、結構成果が出ております。これは今の登録制度を始める前から行ってきましたが、これについては9組ほど成果が上がっています。それから、男性が問題という視点ですが必ずしもそうでは

なくて、私もそうですが、口下手であったり地方特有の性格、悪く言えば消極的なところがあるものですから、その辺を何とかもう一步、プラス発想的なことをということで、セミナーとかやっているわけです。男性だけがターゲットかということですが、そうではありませんで、登録対象者は男性は鶴岡市全域、女性はオープン、どこでもというふうになっていますが、オープンの女性の中には当然鶴岡市、温海地域の女性もいらっしゃるわけで、そちらの方も結婚を希望される方であればと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。齋藤幸子委員 一部私の認識不足のところもありますが、1組でも2組でも結婚が成立するまでずっと継続する事業とお考えなのか、今のところ成果は見られないと思いますが、結婚登録制度の前にも、町民の方に委託してカップルをまとめ上げたという実績もあったかと思えます。東京あたりではプロの女性サポーターが行政に頼らないでやっているところがあると思えますが、もう少し視点を変えて、市民の方にも中に入ってもらって、もっと民間の目で対策制度を拡大していった方が、目に見える成果が上がると思えます。具体的には、婦人会など結婚に対して、子育てに対して経験豊かな女性の観点から、そういう経験者を採用してはどうかと思えますがいかがですか。

総務課長 結婚対策というのは個人の心の部分に係わる問題でもありますので、本来の行政事務とは少し別のものであると考えております。ただ、現実が現実なものですから、少子化対策あるいは福祉対策という視点から取り組みをして、なんとか地域の活性化に寄与できないかという思いでやっているわけですが、最初に申し上げたのが基本的な考え方だと思っております。ということは、いつまでも継続していく事業ではなく、おっしゃいますように民間の方に移行できればというのが、私どもの理想とするところです。今言われましたことも参考にしながら、そのような着地点を探していきたいと思っております。

本間文夫会長 他にございませんか。

本間紀美子委員 資料4ページにございます継続事業のようですが、地域産杉の活用ということで説明いただきましたが、一般住宅については杉の活用が100パーセントの利用のみ対象になるのか、また、これから公共的建物にも杉材の利用ということで計画がありますか。

産業課長 地域産杉ということで、旧温海町では約9割が山林ということで、杉につきましては従来より国産材ということで温海杉ということのを売りながら進めてきたわけですが、なかなか外材に押されましてきびしいということで、地域産杉ということで温海杉をPRしていきながら住宅に対する支援を行ってきました。現時点では地域は旧温海町と旧朝日村、種類につきましては杉に限定しておりまして、杉以外の種類については今後検討課題となろうかと思えます。公共的建物については、これからの計画があるかと思えますが、私どもの立場としましては木材を使っていたきたいと、関係するところとも協議しながら、木材の消費に努めていきたいと思えます。

本間文夫会長 他にございませんか。

齋藤幸子委員 継続事業の中に老人保健事業がございます。その中の一つに

「高齢者インフルエンザ予防接種助成事業」というのがございまして、その中に含まれていると思いますが、毎年 65 歳以上の高齢者に対してインフルエンザ予防接種を半額助成されていると思いますが、これを高齢者に限らず乳幼児、小学校児童にも適用することが出来ないかという要望です。私の知人に三つ子がございまして、子供たちが三人いっぺんに予防注射をしたのですが、子供は大人一回分を一度に注射することが出来ないのので、二回に分けて注射しなければならないそうです。その分割り引いてもよさそうなのですが、1回 2,500 円、二回で 5,000 円です。それが三人おりますので、毎年 15,000 円かかります。三世代同居が温海地区にも多いので、三人目、四人目という子供が結構あります。そうすると予防注射も大変だということで、もしこれが保険適用あるいは高齢者と同じように補助してもらえれば、大変ありがたいという声を伺ったものですからお聞きします。

市民福祉課長 おっしゃるとおり子供さんが多い世帯には経済的にご負担になると思います。少子化対策の一環として今後考えていかなければならないテーマだと思いますので、検討させていただきます。

斎藤幸子委員 温海地区の年間出生数は 60 人くらいだと思います。少子化対策、子育て支援ということからもこのインフルエンザの予防接種の助成について考えていただきたい。インフルエンザの予防接種は毎年打たなければ効果がないということですので、ぜひ子育て支援の一環として、高齢者と同様に考えていただきたいと思います。

本間文夫会長 他にございませんか。

佐藤重夫副会長 5 ページの地籍調査事業ですが、今年は越沢地区を行うということですが、これまでの地籍調査の進行状況ですが、平場や農地は出来てこれから林地に入っていくと思いますが、これからの方向性などをお聞かせいただきたい。

建設環境課長 地籍調査事業ですが、旧温海町の場合、宅地は全て終わっています。今、中山間、農地に入っているわけですが、将来的に普通であれば山林に入っていくわけですが、今私どもで考えておりますのは、どうしても山林ということになると境界確認とか、自分の山もよく分からないという実態でありますし、色々困難な状態になるのでないかということを考えております。従いまして、山林に入るまでは引き続きやっていかなければなりません。そこに至ったとき、これからの地籍調査の需要ですとか、事業効果ですとか、それ以降の取扱いについては検討しなければならないと考えているところです。

佐藤重夫副会長 新鶴岡市の進行状況はいかがですか。山林には入っていませんか。

建設環境課長 新鶴岡市におきましては、旧鶴岡市と旧温海町と旧藤島町が国土調査未完了です。他の旧町村は全て完了しております。旧鶴岡市においてはまるっきり着手しておりません。そういう状況になっています。

本間文夫会長 他にございませんか。

三浦仁委員 私からも少子化についてお聞きしたいのですが、18 年度主要事

業の概要の2ページに誕生祝金支給事業ということで150万円ほど出されているわけですが、合併協定書の中に5年以内に廃止を含めて調整するという項目になっています。国でも少子化には金を掛けながら対策を進めていますが、協定書の中では、5年以内に廃止を含めて調整するということのようにです。少子化については非常に困った事で、我々温海福社会でも保育園を運営していますが、事業として成り立っていけないかなという心配もされてきました。特に山戸保育園ではそろそろ園児が10名を切るということで、先生よりも園児が少なくなって来るのではないかとという大変な事が近々出てくると心配されています。今の事業とちょっとかけ離れますが、保育計画を立てた時点では、小学校区に保育園を一つずつという旧温海町の計画にあったわけですが、その点も見直しをしないといけないのではないかと思います。行政として今後どのような考え方なのかお聞かせください。

市民福祉課長 第一点目の誕生祝金についてですが、合併しました旧町村においては旧羽黒町と旧温海町が誕生祝金の事業を行っております。第三子が生まれる数が大変少なくなっておりまして、当初この事業によって少子化の歯止めになるのではないかと考えられましたが、その効果はだんだん薄れて来ているのかなというのが実感です。そのようなことから、別の福祉事業に変えることも視野に入れて今後検討される予定になっています。第二点目の保育園につきましては大変な問題となっております。平成12年11月に温海町保育計画を立てた折には、小学校区1保育所を堅持していかなければならないことになっていましたが、実際に小学校区1保育所で10名を切ることも確かです。来年度になると山戸保育所においては10名くらいになるだろうということが予想されております。そうしますと経営が成り立たないというのが実情です。このことを踏まえて、保育計画を見直さなければならないということで、合併前に温海町児童福祉審議会が開催されまして、合併後の新市に対する課題としてこのことが答申されております。今後見直すということで行政側と経営されている福社会側との事務局レベルで集まって、今後どうするのか検討委員会を開いております。今日も第二回目をこの会議の後に開く予定になっておりますが、この保育計画をどのようにしていくかということで、温海地域の皆さんに集まっていただいてご意見を伺いたいと計画しております。今年度中にある程度のものを出さなければならないということでがんばっておりますので、ご協力をよろしく申し上げます。

本間文夫会長 他にございませんか。

藤谷隆委員 18年度の主な事業の概要の中の16ページですが、商店街振興対策事業の中の商店街活性化事業補助金30万円とありますが、温海商工会でも申請していますが、それに該当したものなのでしょうか。それから継続事業の中で温海かぶブランド商品開発事業というのは、商品開発推進協議会の方で事業主体をやっているようですが、今から4年前に峠ノ山のドンドコ豆の特産化のためにかなりのお金を使って栽培促進を図ったわけですが、峠ノ山の農家もかなり努力をしているようですが、高齢化や手が足りないなどで耕作面積が減

ってきているという話を聞いています。必ずしも峠ノ山地区でなく周辺地区にも広げて、どんどこ豆というブランド化をしたわけですから、それを啓蒙する方法はないものかお伺いします。

産業課長 商店街振興対策事業については鶴岡市全体の予算でございますし、温海庁舎管内におきましては、商工会事業ということの中では地元買い物運動支援事業とか新規出店支援ということでの予算は組み込まれております。二点目の温海かぶブランド化につきましては、温海特産ということではありますが、焼畑と普通畑の区別を付けていこうということによって差別化ということによって価格面でも特別栽培農産物という認証を取得しながら、新たな商品開発、例えば従来の甘酢漬け以外の漬物の商品開発や、生かぶで生産拡大しながら消費できないレストランなどとタイアップしながら進めていきたいと考えております。どんどこ豆ですが、峠ノ山地区では従来からどんどこ豆を生産しているのですが、現在生産者の数やどれくらいの量を生産しているのか、生産地区の範囲を広げるのかなど、生産者の方々に直接ご意見を聞きながら進めていきたいと考えています。

本間文夫会長 他にございませんか。

本間紀美子委員 市全体の事業概要説明の資料の中で、合併を記念しての新規事業として、子供運動会の計画があるようです。新市全ての小中学校が該当になると思いますが、児童生徒数もあるわけですし、実施計画案など分かる範囲でお願いします。

教育課長 日程としては10月8日、従前温海地域では駅伝大会が予定されていましたが、今後継続していきたいという考えがありますし、10月の第2日曜日ということで予定しています。雨天でも体育館の中でやるということも考えられますので、だいたい子供の数としては1,000人くらい、保護者も参加という事になりますのでだいたい2,000人くらいの規模になる予定です。現在、本所スポーツ課を中心に実施要綱の原案を作成しているようです。今後は実行委員会を立ち上げまして、どのようなスタイルで持っていくか、競技種目と自由に参加できる種目という構成でやっていきたいという考えです。チーム編成としては、中学校区ということで現在進めています。

本間文夫会長 他にございませんか。ないようですので次に進みます。

5. その他

本間文夫会長 事務局から何かございませんか。特にないようですので、委員の皆様からございませんか。

本間儀左衛門委員 観光について新たにお願い申し上げたいということで発言させていただきました。やすらぎの川事業に引き続きましてくらしみち事業として、かつてなかった形で温海温泉を中心に観光のインフラ事業に大きな支出をいただいていることに感謝申し上げます。難しいと思いますが、あえて二つほど提案させていただきます。第一番目ですが、観光施設整備基金をぜひ復活させていただきたいということです。入湯税の3分の1を積み立てて観光を

中心として施設の整備に当てるといふこの制度は、私どもの先輩たちが長年に渡り守り育ててきたものです。主な使途は、源泉有限会社のボーリング、配管換えから、国体直前の鼠ヶ関駅舎の改築やらあつみ温泉駅のホームの屋根の延長ですとか、ただ単に観光というだけでなく、関連したところに幅広く使われてまいりました。この使われ方については、全国に誇り得るものであると思ひます。復活に当たって、温海、湯野浜、湯田川を中心として民間主導でやっているとこを中心として復活を考えられないかと、湯野浜、湯田川さんは既に了承であります。直接自分たちの商売のことに限らず、観光を中心とした地域づくりにぜひ参加したいと思ひております。この仕組みに関しては、前提条件がありまして、旅館業界では、長く入湯税は撤廃という立場を取っております。これからの行政の運営について、広域合併は図られたわけですが、新市にあたって自主財源が大切だということは、民間の人間としても理解できるるところです。全国の旅館の皆さんは撤廃するとしていますが、我々はむしろ踏み込んだ形で、こういった使い方をしていまして全国に発信をしていく事がよろしいのではと思ひますので、全国とは反対の立場になるわけですが、先輩たちが長くこの制度を守ってきたという事と、これから先、観光に関連するところへ我々が参画してということと、このことを提案させていただきます。

それから、温海温泉に無料の大駐車場の整備をそろそろお考ひいただく時期ではないかと思ひます。やすらぎの川事業の整備が進んだことにより、周辺の駐車場不足が深刻になり始めております。自分のところの例で大変恐縮ですが、萬国屋で無断駐車を注意しましたら、若い男性から社員が胸倉をつかまれて、拳銃の果てに翌日にその男性の親御さんから「萬国屋さんともあるものが...」という注意もいただいております。無断駐車をしないということは社会人として当然のルールなのですが、今までは我々としても自助努力一本でこういう要求は控えておりましたが、やすらぎの川事業が順調に進んで、週末や特別なイベントの日に大いにお客様が集まるようになり、それについての弊害が出てきて、尚且つこれからくらしのみちゾーンの整備、特に東北・北海道地区ではたった一つというスーパーモデル地区で進んでいくことを考えれば、更に駐車場不足が深刻になってくることが考えられますので、ぜひ温海温泉に大きな駐車場を整備していく事をご検討いただきたいという事で申し上げます。

総務課長 要望として承り、検討させていただきます。ところで、第一点目については合併前もいろいろと説明させていただいたり、やり取りさせていただいた経過がありますが、具体的に18年度予算の中で入湯税がどうなっているか申し上げますと、総額で1億7,000万円ほどありますが、うち旧鶴岡市地域が7,500万円くらい、旧温海町地域が2,700万円くらい、藤島が2,000万円弱、羽黒が2,200万円、櫛引が1,500万円、朝日が700万円くらいです。いずれの地域も入湯税が入っています。その中で、それぞれの地域で得た入湯税をそれぞれの地域でと限定してしまうのは、合併の趣旨からしていかなものかというふうには以前お話した経過がございます。それから、入湯税については目的税でございまして、おっしゃいますように幅広く使用することもある程度可能で

すが、入湯税の目的に沿った使い方がされなければならないということになっています。その一方で近年は温海温泉の観光振興に特に力を入れまして、入湯税を遥かに超える投資をしてきましたし、温海地域の中心である温海温泉の振興を図ろうということで、一生懸命に取り組んできた経過があり、これからの計画も予定されているということにご理解を賜りたいと考えております。

二点目の駐車場整備については承っておきますし、担当の方とも相談させていただきませんが、これも地域の中で話題になっていることではございますが、ある意味でうれしい悲鳴でもありますので、プラス発想で受け止めまして、まず地域の中で十分どうあるべきか前向きな議論をすることが大事でないかと考えております。

支所長 ただ今の件で、私の方からもお話をさせていただきますが、基金の増設の関係、三温泉の方で色々運動の部分も確認しているようでもございますし、温泉地内の駐車場についても温海だけ行政で財産を取得してという話になるのかということもありますし、これについては、こういうご意見があったということをお市の市長の方に伝えたいと思います。

本間文夫会長 他にございますか。

佐藤重夫副会長 先ほどもありましたが、公共施設に木材を使用するというところで、温海町時代からあった鼠ヶ関小学校なり福栄小学校の改築問題の中で、この問題が大きく取り上げられまして、ただ平成18年度では事業として出てこなかったわけですが、ぜひこれから地域の強い要望として当局でも検討していただきたいという要望です。

支所長 公共的な建物の建設計画で今のところ明確に定められているものはないわけですが、合併前の議会の議論もそうですし、色々な形で議論されてきた経過もございますので、基本計画の策定に当たってはそのような議論になると認識しております。

本間文夫会長 他にございますか。

本間紀美子委員 前に山形新聞の記事で見かけたのですが、市民の健康づくりの目的ということで、教育委員会のウォーキング事業などがありました。こちらの方は支所を中心に旧町村全域に人が周ってくるような機会をつくっていただいたようで、このように平均に周辺の地区の方に人が周ってくるような事業を今後も推進していただきたいなと思います。また、15日に出された広報の方でも、この地域の赤カブ君号の温海めぐりとか、鼠ヶ関を中心とした里山歩きなども、人が周って来られるかなと、合併のメリットと考えております。ぜひこのような事業計画をよろしく願います。

支所長 今回の件も教育委員会だけでなく、色々なサイドでこういった事業が出てこようかと思います。色々なイベントをやっていく上で市の広報に掲載すれば、温海の場合3,000世帯だったのですが、これが数十倍になるという宣伝効果がありますし、このような合併のメリットは十分に生かしていけるように今後とも努力していきたいと思っております。

本間文夫会長 他にございますか。

齋藤幸子委員 鼠ヶ関と早田を結ぶ裏沢林道という道路がありますが、このたびの合併に伴って市道になったと思います。舗装の方がトラック一台通ると余裕のない道路です。平成 16 年に新潟県の中越地震がありましたが、そのときに女性団体に救援物資を届けようと思いましたが、道路が寸断されて国道 7 号や関越の通行止めが何日も続きまして、結局輸送がヘリコプターの空の便になってしまい、大変な目にありました。山形も 20 年以内に庄内沖地震が来るとあると想定がされています。もし国道 7 号や 345 号、今整備されていますが高速道路など主要幹線が寸断された場合、それに変わる輸送道路、生活道路として早田～鼠ヶ関間の道路をきちんと舗装していただくよう働きかけをお願いしたいと思います。

支所長 先ほど予算の説明の中でお話させていただきましたが、暮坪集落内の道路が国道から移管されて何十年ぶりにやっと舗装という道路改良事業の現状ですので、林道から市道に上がった道路と言えども、その他にも基幹的な林道が相当ございます。その部分も含めて、すぐさま今の要望については検討という返事にはならないと思いますので、ご理解いただきたいと思います。

齋藤幸子委員 旧温海町と旧朝日村には過疎債があったと思います。合併に伴って過疎債の適用も考えられると思いますが、これをお願いしてすぐに林道の舗装が出来るとは考えておりませんが、長い計画事業の中でぜひ検討していただきたいと思います。災害があつてからでは遅すぎますので、ぜひその前に考えていただきたいと思います。

本間文夫会長 他にございますか。

今野久良委員 P T A の方からお願いですが、今朝もニュースで秋田の小学校 1 年生が無残な姿で発見されるという残酷な事件がありましたが、温海でもこども見守り隊を募集していますが、なかなか人が集まらない状況であります。登下校のとき、いろんところで地域の方が係わっていれば事件も少なくなりますし、起こらないと思っておりますが、ボランティアに参加してくださる方が少ないという事であります。各自治会、行政の方々からも力強いバックアップをしていただきたいと思います。

本間文夫会長 ただ今の見守り隊については、自治会の方へも要望があつたようですし、自治会長会でもご意見としてしっかりと受け止めて話し合っていきたいと思います。

その他ないようでしたらこれで議事を終了したいと思います。

6 .閉会 （午後 3 時 4 0 分）